

地域の障害のある人と
「つくる」ための
連続講座



LIBERTE

長野県上田市中央4丁目7-23
0268-75-7883
mail@npo-liberte.org
http://npo-liberte.org

交わせられる。

みんなの言葉と話し合えば

子供と子供も言葉で交わす

大人あつかいの言葉を交わす

みんなとみんなで、交わす言葉や

言う言葉や、受け止める自分を信じて。

信じた言葉があり。

気持ちも言葉で現わすもの。

言葉で感動するもの。

心がだてかたに、なるはず

今、言葉を交わせば

人の言葉を受け止め続け

言葉と言葉で交わす

今、言葉、交わす



リベルテ
アーツ
カレッジ

Liberte Arts College

リベルテアーツカレッジ2019



リベルテ アーツ カレッジ

Liberte Arts College

リベルテアーツカレッジ2019

地域の障害の
ある人と
「つくる」ための

連続 講座

企画

 特定非営利活動法人リベルテ

助成

 日本財団

はじめに

リベルテ・アーツ・カレッジは2018年からリベルテの文化事業としてスタートしました。芸術や文化について造詣の深い講師を招き、地域の人にその魅力を紹介しながら、地域の中で障害のある人たちとともに文化活動を行うことを目的に取り組んできました。2018年は3回に渡って「アートを見る」「アートを読む」「場をひらく」をテーマに講演会・トークイベントを開催しました。「鑑賞すること」についてテーマごとに美術家の中津川浩章さんとキュレーターのロジャー・マクドナルドさんに講演をしていただきました。また「場を開く」というテーマで喫茶カプカプの店長である鈴木励滋さんをお呼びしたトークイベントも行いました。

今年度企画したリベルテアーツカレッジ2109では、昨年のテーマを引き継ぎながら「つくる」ことを考える機会づくりを試みました。障害のある人と一緒に文化活動やそうした場をつくるためにテーマを「つくる」としました。座学・ワークショップ・対談形式などのスタイルで地域の中にあるイベントスペースなどを使い、参加者同士の対話を促すような機会をつくりました。今回、令和元年台風第19号という災害を経てイベントそのものの変更を余儀なくされることも経験しました。そうした経緯も合わせてイベント全体のレポートを本報告書ではまとめています。

今年度、障害のある人たちと一緒にイベントをつくることを目指しながら、主催者であるリベルテも被災を乗り越えてイベントを地域の中でつくることになりました。そんな危機的な状況の中で文化が担う役割や有用性について地域の中で共有した機会をつくれたのではないかと思います。リベルテアーツカレッジの実践報告が、私たち以外の障害のある人と文化活動をつくらうとしている誰かの一助にもなれば、幸いです。

2	はじめに
4	PART01 「パフォーマンスをつくる」 2019.06.30
6	参加者感想
8	PART02 「企画をつくる」 2019.09.14
10	PART03 「かううるをつくる」 2019.10.12
12	Re:PART03 「いま ことばを かわす」 2019.11.16
14	Fwd:Re:PART03 「いま ことばを かわすから 生まれたもの展」 2019.11.17~
16	寄稿 池上 幸恵
17	ポエム「ポエムの会で、感じたことは。」 AIKA
18	PART04 「美術館をつくる」 2019.12.01
20	寄稿 荒井 洋文
21	寄稿 野村 政之
22	アンケート集計
25	おわりに



パフォーマンスをつくる

サーカス・アーティストとして広く活躍する金井さんをお招きし、二部構成で行われました。子どもたちやリベルテメンバーも参加され賑やかな会になりました。

午前の部ではソーシャルサーカスの手法を体験しました。体を動かしたり、道具を使って人と協力し合うなど、誰でも参加できる内容でしたが、意外と難しく、子どもも大人も夢中で取り組みました。午後の部では、金井さんが海外での活動で感じてきたことを、パフォーマンスを織り交ぜながらお話いただきました。目標に到達することが良しとされ失敗を避ける傾向にあるけれど、そこから外れることで、オリジナリティが生まれ面白くなること。サーカスでは互いの個性に理解しあえない部分もあるが、作品作りになると個性を活かし合い、看板を描いたり、お菓子を焼いて配ったり、裏方も制作も全て自分たちで行うため、誰にも必ず居場所が生まれるのだと教えてくれました。

障害や障壁は個人にとっても場にとっても、豊かな表現や場を生むきっかけであることを、お話だけでなくワークショップを通して体験することができました。(佃 祥)

講師 金井ケイスケさん
 日付 2019年6月30日(日)
 場所 犀の角(上田市中央2丁目11-20)
 時間 ワークショップ10:30~12:00(開場 10:00~)
 パフォーマンス&トーク13:00~15:00(開場12:30~)

参加費 各回2,000円、大学生以下/障害手帳のある方1,000円
 通し3,000円、大学生以下/障害手帳のある方2,000円
 参加人数 ワークショップ:15名、パフォーマンス&トーク:30名



金井 ケイスケ (かないけいすけ)
 サーカス・アーティスト / SLOW LABEL パフォーミングディレクター

中学生で大道芸を始める。バントマイムの劇団を経て、1999年文化庁海外派遣研修員として、日本人で初めてフランス国立サーカス大学(CNAC)へ留学。卒業後フランス現代サーカス団とともにヨーロッパ7カ国、中東、アフリカ25カ国で公演。各地で人種や宗教を越えたワークショップや発表を行う。2010年に帰国し、日仏間のみならず、数多くの国際共同制作にアーティストとして関わる。2011年より松本市に移住、「まつもとジャグリングクラブ」を立ち上げる。2015年より障害者との作品作りを行う、SLOW LABELのパフォーミングプロジェクト《SLOWMOVEMENT(スロームーブメント)》のパフォーミングディレクター。2016年、パリ市アンスティチュ・フランセが主催する「Les Recollets2016」を受賞。2017年「ヨコハマ・パトリエンナール」のメインステージ演出を担当。松本市在住。まつもと市民芸術館「空中キャバレー/演出・串田和美」には2011年より毎回出演している。

参加者 感想

「いつも言葉に頼ろうとしすぎている」

そう感じることで、言葉ともっと丁寧に付き合おうと思った。自分が発信することも相手から受けとることも、言葉でどうにかなると思うおとしていた。そこに新しいけどどこか懐かしい風を吹かせてくれたのが、アーツカレッジの「パフォーマンスをつくる」だ。棒や、お手玉、空間という相手とのあいだにあるものを介して、相手の呼吸を感じる、相手の皮膚感覚が伝わってくる。ということは、私のそれも伝わっているということ。そこには、言葉がない代わりに嘘も建前もない。そういうやりとりは、とても心地よい。あ、でも少し恥ずかしい。そんな感覚。「つくる」というよりは私には「生まれる」という感じがした。今まで言葉でフラットにかかわろうとして難しかったのに、言葉を手放したら、易しく感じるこの不思議。これからは、相手との関係が煮詰まったら、あいだに道具や空間を用いてみよう、そうしよう。(参加者感想)

身体を動かすのは苦手だけど、なんとか一生懸命やった。疲れたけど、良かったです。いい気持ちで帰れた。(リベルテメンバー感想)



企画をつくる



今回のリベカジでは『企画をつくる』と題して、第1部では岡部さんから はじまりの美術館の背景や今までの企画展やその他今までの取り組みについて、そして、実現したい物事とはなにかを、第2部では武捨を含めた参加者の方からの積極的な質問とそれに答えるかたちでさらに具体的な取り組みや実際にどのような変化を起こすことができたのかをお話いただきました。

自分たちが目指すものは寛容で創造的な社会の実現であり、企画をつくるとは色々な意味での場づくりであると岡部さんは話されました。

はじまりの美術館では訪れた人に新たな発見を与えられるよう様々な仕掛けが工夫されています。表現や作品、人、出来事などなにかに 出会ってここから何かが始まるように、出会ったその人がそのひっきりを日常に持って帰って自分の生活の中で何か生かされていくように、との思いを持って日々チームで取り組まれているそうです。

障害とアートは似ていると話されました。よく知らなくて、なんとなく自分とは関係ないと思っている。でも、新しい発見がいっぱいあって、既存の価値観を見直させるような切り口がいっぱいある。一人ひとりになにか変化を与えたい、様々な行き詰まりを抱えている現代の社会が変容するきっかけになれば、と。

日常の延長線上で感じてほしい、という言葉にリベルテに近いものを感じ、勇気づけられました。(渡辺瑞穂)

講師 岡部 兼芳(おかべたかよし)
 日付 2019年9月14日(土)
 場所 26bldg.(上田市大手2丁目2-27)
 時間 open 18:30~ start 19:00~21:00
 価格 一般:2000円、大学生以下/障害手帳のある方:1000円
 定員 30名



岡部 兼芳(おかべたかよし)

社会福祉法人安積愛育園 マネージャー、はじまりの美術館 館長

1974年福島県郡山市生まれ。釧路公立大学経済学部経済学科卒。佛教大学通信教育課程(特別支援教育)修了。共同作業所作業指導員、中学校教員を経て、2003年社会福祉法人安積愛育園入職。同法人障害者支援施設あさかすなろ荘にて生活支援員として働く中で、知的に障害のある利用者さんの創作活動支援プロジェクト「unico(ウーニコ)」に携わる。2013年に美術館立ち上げ準備室へ異動。2014年はじまりの美術館開館より現職。「人の表現が持つ力」「人のつながりから生まれる豊かさ」に視点を置き、「誰もが集える場所」として開設された美術館から、寛容で創造的な社会の実現に向けたきっかけづくりを行う。福島県立博物館運営協議会委員、機関誌「手をつなぐ」編集委員も務める。

令和元年

台風第19号のため

開催延期

リベルテアーツカレッジ2019 PART.3

奥に見えるのは、メディアでもよく取り上げられていた台風によって上田電鉄別所線の架橋。落下した部分は取り外されました。普段の河川敷は散歩する人や家族連れでレジャーシートを敷いて過ごす人などもあります。上田駅から一駅の城下駅までの運行の目処は未だ立っていないが代行バスが出ています。台風から半年が過ぎ、被害の跡と日常が戻りつつある風景が混ざっています。

令和元年台風第19号上陸を目前に延期を決定しました。これが11月16日のイベントにつながる訳ですが、主催者としては災害を理由としたイベント中止・延期することは想定していませんでした。イベント前日に中止を決定しました。台風が近づき、刻一刻と雨と風が強くなり、被害状況が明らかになりました。

イベントについて話を戻すと、イベント当日の1週間前に会場となるバリューブックス上田原倉庫をAIKAさんと取材・リサーチに行きました。倉庫をAIKAさんのポエムで案内し、彼女の目線から生まれた言葉で感じた「働く」場所であり「うる」と「かう」を生み出す場を再構築していくことを参加者と一緒に体験する企画の予定でした。取材を通じ描き下ろしのポエムも作詩・制作もしていました。延期し、ポエムでツアーをする企画は変更となってしまいましたが、AIKAさんのフリースタイルでその場で生み出す詩とリーディングをリベルテの一つの表現として、彼女自身と一緒にイベントを考えつくるきっかけになったプログラムになりました。(武捨和貴)

ゲスト	鳥居希さん バリューブックススタッフ	11:00~	ポエムツアー「バリューブックス上田原倉庫」 ツアーアテンド バリューブックススタッフ ポエム:AIKA from リベルテ リーダー:あなた「あなたのことをさがしてください」
パフォーマンス	AIKA from LIBERTE		
出店	Time Espresso(カレー)		
日付	2019年10月12日(土)		
場所	(株)バリューブックス上田原倉庫(長野県上田市上田原680-17)	12:00~	お昼休憩 出店:Time Espresso
時間	11:00~14:30 (開場 10:45)		
参加費	2,000円 障がい者手帳をお持ちの方/学生1,000円	13:00~14:30	キートーク「バリューブックスで働くということ」 鳥居希さん セッション「うるかう」をつくる「なか」で
参加人数	20名		
協力	株式会社バリューブックス https://www.valuebooks.jp		

この原稿を書いている2月末現在、新型コロナウイルスを理由に日本国内ではイベントや学校の休校など、社会に大きな影響が出ています。更に大きくなることも予想されます。流行を防止するために全国の小中学校、高校、特別支援学校の3月2日から春休みまでの休校要請を内閣総理大臣が2月27日に発表し、その前段としてイベントや外出などの自粛検討についても発表されていました。イベントの中止で、コンサートや演劇などの公演が中止され多大な損害や報酬が支払われなくなる(そしてそれに対する保証がない)など、問題も話題になっています。

リベルテの企画は人の生活が立ち行かなくなるような大きな損害が出るものではありません。しかしイベントを実施すること、施設を運営すること、地域で協働する事業を行うことなど、関わる団体や個人の立場や価値観の違いの間で揺れ、そして省みる機会になりました。信頼と安心についてどう考えるか。価値観や立場の違いはどうか。台風、そして疫病、その真っ只中に身を置くことを経験し、今も考えています。(武捨和貴)



ゲスト 鳥居 希
AIKA from LIBERTE
出 店 Time Espresso(カレー)
日 付 2019年11月16日(土)
場 所 Valuebooks Lab.(長野県上田市中央2
丁目14-33)
時 間 11:00~14:30(開場 10:45)
参加費 1,000円、障がい者手帳をお持ちの方/
学生500円
参加人数 20名
協 力 株式会社バリューブックス
<https://www.valuebooks.jp>

いまこそ「ぼ」があす



スケジュールを変更しての開催のため、どんな内容になるか、どんな人が来るかわからない中でスタッフや、講師の鳥居さんや当日参加して下さったバリューブックスの西山さんも集合後緊張気味でした。フェイスブックページ上の参加予定者よりも多くの方が実際に参加してくださり、またリベルテの事務所がある同じ自治会からも参加された方がいました。第1部はポエムの会。AIKAさんのポエトリーリーディング後に来場者それぞれも作詩をしました。Time Espressoのカレーの屋台も出たお昼の後は、バリューブックスのスタッフによる台風後の被災地支援のレポートを鳥居さんからして頂きました。午後の部後半は、振り返りのリベルテ100年未来トークを行いました。

AIKAさんのポエトリーリーディング後に来場者それぞれも作詩。Time Espressoのカレーの屋台も出たお昼の後は、振り返りのリベルテ100年未来トークを行いました。1日に複数のイベントをギュッと詰め込んだ…詰め込み過ぎて、参加者や見学者の混乱を招いたイベントでしたが、メンバーのAIKAさんの即興詩やリーディングがイベント全体を包み、まとめてくれました。(武捨和貴)



鳥居 希 (とりのぞみ)

長野県埴科郡坂城町出身。2015年7月、株式会社バリューブックス入社。「日本および世界中の人々が自由に本を読み、学び、楽しむ環境を整える」というバリューブックスのミッションのもと、活動中。リベルテFC所属。



バリューブックス株式会社

「日本および世界中の人々が自由に本を読み学び、楽しむ環境を整える」バリューブックスは、このミッションのもとにインターネットで古本の買取販売を行う会社です。拠点となるのは、長野県上田市。市内4か所にある倉庫には、およそ150万冊の本が本棚にぎっしりと並び、全国から毎日2万冊もの本が届き、同じように、日々たくさんの本が新たな読者のもとへと送り出されています。本による寄付「チャリボン」や移動式本屋「BOOK BUS」、本を寄贈する「BOOK GIFT Project」など、様々なプロジェクトにも取り組み、ミッションに挑戦しています。



AIKA from LIBERTE

リベルテのアトリエ「スタジオライト」の最初のメンバー。リベルテには真剣に遊ぶことを仕事にきているOL(大きなラブ)な女子。アトリエでは刺繍やミシンなどの雑貨づくりを行う。最初は目指す女性になるために書き出したポエムもいつのまにか飽きて、今は恋する「彼」に向けて書いている。最近では谷川俊太郎よろしくパソコンで詩を創作。



Time Espresso(カレー)

コーヒーとカレーのお店。長野県東御市を拠点にキッチンカーによる出店や上田市柳町にあるコトバヤで間借りカレーも不定期で提供しています。

20191117-1222

リベルテアーツカレッジ2019

Re:PART 03

いま ことばを かわす から
生まれたもの 展



いまことばをかわすから生まれたもの展

リベルテアーツカレッジ2019 Re: PART3「いまことばをかわす」で行ったAIKAさんのポエム、参加者の思いおmoiの詩などの創作を展示した企画。11月16日のイベント後に急遽決まり開催。展示は池上幸恵さん。スケジュール変更し開催したイベントはAIKAさんの即興詩やリーディングがイベント全体をまとめてくれました。それはこの後に掲載する池上さんのテキストにもある通りAIKAさんの「同じにならない」言葉で、災害後の混乱やその機会に限らず、普段言い当てられぬ思いを貫いてくれる「何か」をもっているからなのかもしれません。今回の展示は急遽展示したものを、改めて池上さんが展示し直していただき、イベントを見学し会場となったValubooks Lab.でAIKAさんのポエムを再構成していただきました。展示中も参加者の感想を投稿できるコーナーを設けていただくなど、イベントと展示を繋ぐ仕掛けも設けていただきました。メンバーやリベルテが地域の人に意図を委ねて実現した企画でもあります。(武捨和貴)



会 期 2019年11月17日(日)～12月22日(日)中の営業日(金～日曜日)
場 所 Valuebooks Lab.(長野県上田市中央2丁目14-33)
時 間 12:00～18:00
協 力 株式会社バリューブックス <https://www.valuebooks.jp>

20191116
20191117-1222

リベルテアーツカレッジ2019
PART 03
Re:PART 03

いま ことばを かわす から
生まれたもの展



ポエム AIKA

ポエムの会で、感じた事は、

たのしくおんなと出来た事かな。
その意味が、参考になるんだ。
だからみんなが書いたポエムが、私が感じた事かな。
感じるよりも、感動かな。私にちよ。
みんなの言葉が、ホエムだと感じた事。

大人だけの、いる前には、出来る事だと信じて、

リベルテアーツカレッジ、大きなステーションと

相手の気持ちを知るのは、仕事だと、思っている。

言葉を、探して、かわす、おんなは、思っている。

みんなの前で、発表する時は、言葉を、心で、

どんな時に、感じて、ホエムの言葉を、探して、その、ホエムする、事かな。

私が、感じた事は、みんなの、表現が、私が、感じた、事かな。

現わす、事、自分の、気持ち、で、ホエムに、する、事かな。

全員の、ホエムと、感じる、事かな。

心が、さがる、さがる、よ、ホエムかな。

要は、ホエム、で、感じた、事かな。

気持ち、で、言葉を、信じて、い、か、さ、う、て、白、ら、さ、信、じて、

どんな時に、感じて、思、い、出、し、て、書、く、か。

私が、感じた、事は、みんなの、ホエム、を、見た、時、が、い、か、な。

言葉を、かわす、って、いつ、みんな、の、い、けん、つ、で、い、ら、な、い、ホエムが、

私、みんな、の、書、く、意、気、ん、が、す、ま、ら、さ、さ、感、じ、る、か、な。

リベルテメンバー、詩人でありアイドルの「AIKA」が書いたポエムの展示とそれにまつわる座談会「いま ことばを かわす」は、当初リベルテアーツカレッジの企画には含まれていなくて、ももとの企画は「かう うる をつくる」というタイトルのものだった。開催日当日に台風19号がやってきたため開催を延期し、台風が過ぎ去った直後、予想以上に大きくなった台風の被害を目の前にして、いま必要なのは「かうと うる」を考えることではなく「ことばを かわす」時間のことなんじゃないか、というふうに意見が一致して「いま ことばを かわす」というイベントが立ち上がったときいている。

わたしはこの「いま ことばを かわす」のイベント会場になった、上田市にある古書販売の店「バリューブックスラボ」の店番をしていて、「AIKA」のポエムの展示やそれを見に来るひとの様子を1ヶ月のあいだ眺めていた。

展示には新作のポエムがたくさんあって、なかでも「AIKA」がバリューブックスの倉庫を見学しにきて出来上がったという超巨大なポエム(ヨコ3m、タテ1.5メートルくらいある)がすばらしかった。「バーコードスキャン」という言葉をこんなにいやらしくなく、純粋な感動を持って書くことができる詩人をわたしは見たことがない。(バリューブックスの倉庫では、古本を査定したりオンラインに出品したりする時にバーコードスキャンをたくさんする。音も出るので、たしかに倉庫に来るとバーコードスキャンの印象はわりと強いと思う)

「機会を本を新しくしていく」という言葉もあった。たぶん機械のことだと思うけど、バリューブックスは古本の、買取・査定・オンラインへの出品をしている場所なので「本を新しく」している場所ではないんだけど、そういうふうに「AIKA」には見えたということがとてもうれしかった。誰かにとって不要になった本を、必要とする他の誰かの手に届けるという作業は、その本に「新しく」違った道を指し示す、ということにもなるのかもしれない。だから「本を新しくしていく」というのは、言葉としてスツと意味が通らなくても、感覚的にはそのとおりの気がしている。

ほかのポエムにも「大人あつかいの言葉を交わす」とか「OL」とか、立ち止まらずにはいられない言葉が散らばっていて、わたしはその言葉の真意にもぐるような気持ちで「AIKA」のポエムと向き合った。

「AIKA」のポエムがとても好きだ。ポエムというか、言葉の選びかたが好きだ。だけどわたしたちはたぶん、世界を同じふうに見ることはできないと思う。「AIKA」がポエムに書いたことばの質感や重みと、わたしが受け取った質感や重みは、ずっと同じにならない気がしている。そのことは、さびしくも悲しくもなく、ずっと「おんなじにはならないなあ」と思いながら、「AIKA」が選ぶ言葉を好きにいるんだと思う。

寄稿

池上幸恵

(いけがみ・さち恵)
バリューブックスラボ店番スタッフ、365出版所
属、土偶作家。リベルテさんは、上田の宝だなあ
とずっと思っています!



※このポエムは左から右へ読んでください。

講師の住友さんは、高校時代に上田に陸上部の合宿で来られていたり、リサーチで別所に訪ねていたり、以前から上田市との関わりがあるそうです。そんなお話から、世界的に美術館が共通して課題となっている問題、そしてその延長線上にアーツ前橋の運営や企画もあるという話題を経て、開催期間中であつた「表現の生態系」(*1)、また地域や行政との関係について協働という関係だけでなく、緊張や独立しながらも地域の中にアーティストと「在る」ことを、全体を通してお話し頂きました。また自分らしくあろうとすること、自分たちの価値観を大事にしていくスタンスが福祉のフィールドに入った時に役に立つこともあるという話はこの企画の主旨を総括し勇気づけられる言葉でした。有名書店員さんの話題で盛り上がり、参加者からの質疑応答に気さくに解答いただいたり、参加者の方からもテーマ以外の感想を沢山いただき、今年度の企画を総括する意味でもとても充実した回でした。(武捨和貴)

*1 「表現の生態系 世界との関係をつくりかえる」(会期)2019年10月12日～2020年1月13日(会場)アーツ前橋 <https://www.artsmaebashi.jp/?p=13991>

講師 住友文彦さん
 日付 2019年12月1日(日)
 場所 犀の角(上田市中央2丁目11-20)
 時間 14:00～17:00(開場 13:30～)
 参加費 2000円、大学生以下/障害手帳のある方:1000円
 参加人数 40名



住友 文彦(すみとも ふみひこ)
 アーツ前橋 館長、東京芸術大学 准教授

1971年生まれ。ICC/NTTインターコミュニケーションセンター、東京都現代美術館などに勤務し、「Possible Futures:アート&テクノロジー過去と未来」展(ICC/東京/2005)、「川俣正[通路]」(東京都現代美術館/東京/2008)、ヨコハマ国際映像祭2009、メディアシティソウル2010(ソウル市美術館)、別府国際芸術祭「混浴温泉世界2012」などを企画。また、2006年にはオーストラリアでおこなわれた「Rapt!:20 contemporary artists from Japan」展、2007年には中国を巡回した「美麗新世界」展で、日本の現代美術を共同キュレーターとして海外へ紹介するほか、あいちリエンナーレ2013のキュレーターもつとめる。おもな共著に「身体の贈与」(『表象のディスクール6 創造』、東京大学出版会、2000年)、「キュレーターになる!」(フィルムアート社、2009年)、「From the Postwar to the Postmodern, Art in Japan 1945-1989: Primary Documents」(Museum of Modern Art New York, 2012)がある。NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ(AIT)の創立メンバー。



美術館をつくる



寄稿

一般社団法人シアター&アーツうえだ代表
荒井洋文

上田市の商店街の中で、劇場、カフェ、ゲストハウスが一体となった文化施設「犀の角」を運営して3年が過ぎた。日々旅人やアーティストを受け入れているが、毎日が異文化との出会いだ。様々なことが起こる。素晴らしい出会いや喜びがある一方で、腹が立つこともある。明らかに自分の考え方や文脈の違う人とどうやって付き合っていくのか、壁にぶちあたることもある。自分が使っている「ものさし」では計測ができない人たちがいるという現実、その都度、戸惑いながら暮らしている。

障害のある人との付き合いも同様だ。武捨さんがどこかで「障害」とはひとつの「文化」だと述べていたが、まさに異文化そのものだ。私は自分自身に障害があると思っているのだが、だからこそ障害のある人の気持ちがわかるかという、そんなことはない。自分の中で発酵しきった苦しみの塊のようなものとまみえながら、自らを憐れむばかりだ。社会に目を向けてみれば、「多様性のある社会に」とよく言われるようになり、随分生きやすくなった人たちも増えたようにみえる。が、一方で同一の文化を持つもの同士で固まって、他と交わろうとしない人、さらには自分たちの意にそぐわないものは排除しようとする輩が増えている印象もある。

そうした社会の空気の中で、武捨さんが「リベルテアーツカレッジ」を犀の角を会場に開催したいと申し出てくれたことは犀の角にとって大きなトピックだった。リベルテという福祉施設がなぜ障害のある人と表現活動をしているのか、あるいは、なぜ障害のある人とアートをつなげようとするのか、その理由については本当のところはよくわかっていない。しかし、臆測で恐縮だが、武捨さんが「制度としての障害者福祉」、あるいは「障害のある人による〇〇」等に対してある種の閉塞感や危機感のようなものを抱かれており、それが「アート」、つまり、現状の社会に対して異なる価値観を提示するものを引き寄せているのではないかと。またこうしたイベントを福祉施設以外で開催することを選ばせたのではないかと。だとすれば、「リベルテアーツカレッジ」はリベルテによるアートを通した積極的な異文化交流の試みだと言える。扉をノックされた側の私としては、ちょっと先を越された感を抱きながらも、どんな方が講師に招かれて、どんなことが話されるのか、非常に関心を持った。自分自身もいくつかの回に参加し、疑問に感じたことは率直に質問をさせてもらった。講師の方がそれぞれの専門性のなかで、「障害」、「異文化」あるいは「創造」を捉え、言語化し、さらに社会のなかに位置付ける作業をされており、それが私や犀の角に、あたらしい「ものさし」をもたらすことになった。あとは、その「ものさし」を自分のものにできるかどうかだが、それは私自身にかかっている。

こうした異文化交流による出会いは特に地方都市においては大変貴重な機会である。もしそれがおこなわれなかったとしても、大した問題にならないが、あったほうがいいに決まっている。そうしたことを本当にできるかという簡単なことではない。

荒井 洋文 (あらい ひろふみ)

上田市出身。中心商店街で演劇やアート活動、ライブ等で使用できるイベントスペースとゲストハウスを備えた民営文化施設「犀の角」を運営。表現や地域住民・アーティストの交流の場として様々な活動を展開している。

寄稿 野村 政之

アートにはさまざまな役割や意味があると思いますが、リベルテのような福祉施設がこれを行う場合を念頭におくと、アートが「現実と非現実の緩衝地帯」というような時間や空間をかたちづくる、という側面が、特に大事なのではないかと思います。

福祉施設には、福祉施設の独特の時間や空間があります。すごく簡潔にいうと、それはケアされる人とケアする人のあいだの相互関係からうまれてきます。一方で、地域の一般の社会は、必ずしもケアされる人の存在を前提としていないかたちで動いているといえます。

また、福祉施設の時間や空間と、一般の社会の時間や空間は、うまくまじりあっていません。そのあいだに「障がい」があります。そこにアートが「緩衝地帯」として作用する。

リベルテが地域でアートに関する活動を行うというのは、「まだ実現していない、うまくまじりあった時間・空間」(非現実)を、地域の「現実」とかかわらせる時間・空間を仮構することなのだと思います。

そのアプローチとして2つの方向があって、ひとつは、福祉施設の時間・空間を地域社会の時空間に持ち出して、ふだん関わりのない人が関わってくるようなアートの時間・空間としてつくっていくこと、もうひとつは、アートに関わる時間・空間を、福祉の考え方を含みかたちで読み替えていくことなのではないかと、私は思います。

リベルテアーツカレッジ「美術館をつくる」では、アーツ前橋・住友文彦館長を招いて、「表現の生態系」展にまつわる話を中心に、美術館の運営そのものの考え方について、うかがう機会となりました。「表現の生態系」展は、その名の通り、狭義の「アート」からこぼれるかもしれない様々な「表現」のありように触肢を広げ、「表現」が生息する地域社会の様々な局面の再発見ともなるような展示がなされていました。既存の価値観に沿ってアートの輪郭を際立たせるのではなく、表現の在り処に赴き、寄り添って、アートを「緩衝地帯」へ捉え変えていく、そんな取り組みであったとも言えます。

この姿勢は、そのまま、利用者の「表現」とともに歩むリベルテのアート活動にも通じるものといえます。それとともに、アートを通して地域を再発見していくという意味でも、今後のリベルテの活動にとって重要な示唆をたくさん含むものでした。

アートという緩衝地帯を有効に設定することで、地域市民とリベルテの利用者およびスタッフが、現在の現実から一歩踏み出し、新しい地域を見出す触媒となっていくことを今後も期待しています。

野村 政之 (のむら まさし)

長野県塩尻市出身。演劇制作者／ドラマトウルク。公共ホール、民間劇場勤務のち、舞台芸術の創作現場と文化行政・公的芸術文化支援に並行して携わる。長野県県民文化部文化政策課文化振興コーディネーター。

アンケート集計結果

性別	年代	住まい	参加の仕方
男性	10代	上田市内	第2部のみ
女性	20代	佐久市	1部と2部両方
無回答	30代	小諸市	無記入
合計	40代	長野市	
	50代	須坂市	
	60代以上	軽井沢町	
		青木村	
		無記入	

Q1. リベルテアーツカレッジの開催を何から見聞きして知りましたか? (複数回答可)

チラシ	3
SNS	7
新聞やニュース番組	1
友人や知人	1
リベルテスタッフ	2

Q3. 内容に関して、感想やご意見を自由にお書きください。

- ・興味深い内容でした。行ったことがあるので、裏側を聞けてよかったです。(30代男性)
- ・ありがとうございました。(10代男性)
- ・共感できること満載でした。「気になる」というキーワードに惹かれました。友人が猪苗代にいますので(写真にも写っていました)、行きたいと思いました。(30代女性)
- ・これからの自分の福祉観にすごく刺激がありました! 一つ一つの言葉が、聞き漏らしたくない。良かったです。ありがとうございました。(30代女性)
- ・つながるとかおもしろい、とかのキーワードに共感した。(50代女性)
- ・各回で設けているテーマ(今回なら「企画をつくる」)の背景、設定した理由を知りたいです! エピソードがあったりするのだろうなあと。(20代女性)

Q4. 今回のテーマ「企画をつくる」について内容をもっと知りたいですか?

もっと知りたい	4
続きがあるなら聴いてみたい	8
この内容は十分だ	1

Q6. この後もリベルテアーツカレッジでは企画を予定しております。参加したいと思いますか?

ぜひ参加したい	7
予定が合えば参加したい	6

Q2. 講演の内容について、当てはまるものに丸を囲んでください。

とても満足	10
満足	3
ふつう以下	0

- ・「不便にかくれた革新性」言葉のはしばしに意思を感じました。(30代女性)
- ・とてもおもしろかったです。企画の視点というか、立て方の考え方がすばらしいなと思いました。身近に感じさせるコピー、ポスターデザインが企画の意図にマッチしていて目を引きました。(40代女性)
- ・ありがとうございました!!目の前のことが社会を変えていくことにつながっているという視点に、希望をいただきました。(50代女性)
- ・ぜんぜんやってることはちがうんですけど、ビジョンとか目指すものが近いなあと感じます。気分転換になりました。つながりをつくるの上手だなあと感じて刺激になります。(40代男性)

Q5. もし深掘りして聴いてみたい内容があれば教えてください。(開催日時、時間の長さ、雰囲気、アクセス等)

- ・人が集まる場になっていった過程(50代女性)
- ・何でも…教えて頂きたいです!(50代女性)
- ・開催日時、時間の長さ、雰囲気。Caféがあるとうれしいです(のみのもの)(30代女性)

Q7. リベルテアーツカレッジで取り上げてほしい話題やイベントがあればお書きください。

- ・リベルテはどんなプロセスを経て企画を考えているのかとかも気になります。(30代女性)
- ・何でも…。つながる仕組みをつくるようなことに興味があります。
- ・障がいとの向き合い方、「おそれ」みたいなものが差別を生んでいると思うので、私たちが社会としてどう受け止めるかどうかなど。
- ・地味だけど、あんまり表に出してないけど、つながりをすごく意識してやっている方々に会いたいです。

アンケート集計結果

性別	年代	住まい	参加の仕方
男性	20代	上田市内	第2部のみ
女性	30代	長野市	1部と2部両方
無回答	40代	東京	無記入
合計	50代		

Q1. リベルテアーツカレッジの開催を何から見聞きして知りましたか? (複数回答可)

チラシ	1
SNS	3
リベルテスタッフ	2

Q3. 内容に関して、感想やご意見を自由にお書きください。

- ・ポエムを書いて聞いて(20代 男性)
- ・メンバーの方たちも沢山参加されていて、お話ができてうれしかったです(30代 女性)

Q4. 今回のテーマ「企画をつくる」について内容をもっと知りたいですか?

もっと知りたい	2
続きがあるなら聴いてみたい	4
この内容は十分だ	1

(多分気付きが重要なテーマで、継続しても今回回のインパクトはないかもしれません)

Q6. この後もリベルテアーツカレッジでは企画を予定しております。参加したいと思いますか?

ぜひ参加したい	3
予定が合えば参加したい	2
わからない	1 (テーマによっては)

Q2. 講演の内容について、当てはまるものに丸を囲んでください。

とても満足	5
満足	1
ふつう以下	0

Q5. もし深掘りして聴いてみたい内容があれば教えてください。(開催日時、時間の長さ、雰囲気、アクセス等)

なし

Q7. リベルテアーツカレッジで取り上げてほしい話題やイベントがあればお書きください。

なし



アンケート集計結果

性別	年代	お住まい	
男性	30代	上田市内	御代田町
女性	40代	千曲市	その他の県内
無回答	50代	佐久市	群馬県北軽井沢
合計		松本市	新潟県
		軽井沢町	

Q1. リベルテアーツカレッジの開催を何から見聞きして知りましたか? (複数回答可)

チラシ	5
SNS	10
リベルテスタッフ	4
友人・知人など	1

Q3. 内容に関して、感想やご意見を自由にお書きください。

- ・とっても楽しかったです!住友さんのお人柄もステキです。(30代 女性)
- ・美術史や社会情勢含め、現代における美術館の意義について深く考えるきっかけになりました。ビジネスの視点をあえて入れない美術館のあり方が新鮮で、そこに継続する可能性があるのかと感じました。(30代 男性)
- ・ちょうど気になっていたアーツ前橋のこと、上田でできるなんてとてもうれしい機会でした。ありがとうございます!(30代 女性)
- ・楽しく聴かせさせていただきました(40代 男性)

Q4. 今回のテーマ「企画をつくる」について内容をもっと知りたいですか?

もっと知りたい	7
(企画の立ち上げ方のプロセスを見てみたい)	
続きがあるなら聴いてみたい	7

Q6. この後もリベルテアーツカレッジでは企画を予定しております。参加したいと思いませんか?

ぜひ参加したい	6
予定が合えば参加したい	8
わからない	0

Q2. 講演の内容について、当てはまるものに丸を囲んでください。

とても満足	10
満足	4
ふつう以下	0

Q5. もし深掘りして聴いてみたい内容があれば教えてください。(開催日時、時間の長さ、雰囲気、アクセス等)

- ・面白い話が聞けそうだ~と思って来ましたが、面白かったです!(40代 女性)
- ・とっても面白い企画でした。美術が色々な所と交わる「タネ」が見つけれたらと日々思っています。(50代 男性)
- ・幅広い内容で、考えるヒントをたくさんいただきました。(50代 男性)
- ・とてもおもしろかったです。(50代)
- ・自分の仕事に関して初心に戻ることができた。(50代 女性)

Q7. リベルテアーツカレッジで取り上げてほしい話題やイベントがあればお書きください。

- ・ちくわがうらがえる
- ・障がい者と普通の人がいっしょに何かを作るイベント、楽しむイベント! コハンを作って、食べるetc...
- ・障がいのある方の美術作品の販売や仕事にしていることに関する内容
- ・ポータルにしていって試み 多様性を広げるようなもの、コト
- ・感性工学

おわりに

リベルテアーツカレッジ2019は、企画全体を通して「つくる」ことを考え学ぶ場を地域の中でつくりながら、リベルテも地域の人と一緒にイベントをつくることを改めて取り組む機会となりました。個人でも団体でも、芸術や文化活動を続けていくことはときに沢山の「障害」に出会います。2019年10月12日に令和元年台風第19号の直撃により長野県上田市も甚大な被害を被り、リベルテアーツカレッジで当初予定していたイベントの開催も延期する事態も起きました。その災害を経てイベントが変化し(「イベント」として構成が十分ではなかったとは言え)、地域の人が交じり対話しそれぞれの言葉に残す企画に変化しました。本報告書P10~11でその経緯などをレポートしています。

「障害は文化の起点となる」はリベルテの文化事業のコンセプトですが、今回リベルテが実際に災害を経験し(それは非常に怖く、そして切ない経験でもあり)ました。当事者として自らその「次のこと」を考え、そして地域の人とともに文化活動を「つくる」機会になりました。結果、構成の未熟さや混乱がそのまま反映され、様々な要素を雑多に詰め込んでしまった企画になってしまいました。ただ「わたし」の先に、「あなた」の評価が置かれ軽くて弱く未熟な「ことば」や「ば」に映ったとしても、その場にいた人「たち」が分かち難く経験した、その場の空気や雰囲気の中で感じた「それぞれ」は確かにイベントにはありました。それはもしかしたら表現未満、かもしれない。しかし、いやだからこそ、そこで編み出された「感情」は、「私たちの」ものであると同時に「わたし」の一部としてミームとなって地域の中の人の心や感情の中に潜んでいったはず。そして(きっと)その人の中に生まれた潜んだそれは、私たちの知らない「あなた」と「わたし」へと知らず知らずのうちに交換し合っているかもしれません。そんなことを妄想しながら、まだどこかで誰かと一緒に何か新しいことをリベルテは始めるでしょう。

うまくいかないことはどうしても起こります。しかし、どうか「うまくいかないから」と、うまくいかないもの同士をくっつけて「分けて」しまうものになりませんように。うまくいかないときこそ、「ひっくり返し」て新しいものを生み出すもの—アートや芸術、人が人と紡いできた文化—がそこに、「あなた」に、「わたし」の傍らにあることを願います。リベルテアーツカレッジが潜めた意思の「が」、分断されようとしている関係や危機的状況に届きますように。人と人の関係を物理的に分断しうるような障害に対して、むしろ私たちが、そうした危機的状況にある「障害のある当事者」として今、何を一緒に「つくる」ことを続けていきたいと思えます。

最後に、今回の講師の皆さま、参加者・ご協力いただいたボランティアや関係者の皆さま、そしてメインビジュアルから登場イベントでポエムをライブで作詩してくれたAIKAさんへ感謝申し上げます。ありがとうございました。

特定非営利活動法人リベルテ 代表 武捨 和貴

特定非営利活動法人リベルテ

障害のある人の表現と鑑賞をめぐる連続講演 リベルテアーツカレッジ2019 報告書

発行日 2020年3月1日

発行元



特定非営利活動法人リベルテ
〒386-0012 長野県上田市中央4丁目7-23
TEL 0268-75-7883
MAIL mail@npo-liberte.org
URL http://npo-liberte.org

主催 特定非営利活動法人リベルテ
企画・制作 武捨 和貴(特定非営利活動法人リベルテ)
編集・デザイン 若林 広
写真 村上 圭一(CBP) P.4-9、18-21
野々村 奈緒美 表紙、P.1-2、12-13、16-17
池上 幸恵 P.14-15
イラスト AIKA 表紙ポエム、S.S.G、ロゴ・タイトル・見出し
執筆者(五十音順・敬称略) 荒井 洋文、池上 幸恵、野村 正之、
リベルテスタッフ(佃 梓 新田 なつき、渡辺 瑞穂、武捨 和貴)
協力 リベルテFC  VALUE BOOKS  SLOW LABEL®
社会福祉法人安積会  はじまりの美術館
助成  日本財団

